



明治二十三年（一八九〇）、四万十川中流の四万十町窪川で起こった出来事です。

二、三日前から降り続いた雨は、しだいに激しくなり篠つく豪雨となりました。特に四万十川上流の東津野、梶原郷は水量がものすごく、谷川は増水して氾濫し濁流は山肌をえぐり、山々の山腹から水が突き出て、山崩れが起きました。

水は谷あいや平地の家々に溢れ、近辺の田畑もみるみる水没しました。上流から根こそぎの流木が押し寄せ、牛馬が流され、遂には住家まで、ものすごい勢いで川下に流される有様でした。

しかし、夕方になると四万十川の水は急に引き始め、さらには急に止まるほどとなり、やがて西の方から陽が差し出したのです。川の水はどろ濁りでしたが、普段と少し違う程度でようやく落ち着きを取り戻していました。松葉川や西川角などでは近所の人々が道端に集まり、すさまじかった水の出方を話すなどの光景も見受けられました。

ところが、それから一、二時間たったと思われた時刻に、にわかに大音響が起きました。すさまじい山鳴りがとどろき、大激流が田畑、家屋を押し流し、その大濁流の中を人々は無我夢中で家の裏山や丘へ逃げまどい避難しました。比較的平地にある流域の集落はほとんど水没し、牛馬が流され、不意をつかれた人たちは数多くの死傷者を出しました。家もろとも家人もそのまま流され、家の草葺きの屋根の上にしがみつながら助けを求めているという悲惨な状況でした。

上流の東津野村で山崩れが起こり、土砂が川の水をせき止めていましたが、貯まった水の量に耐えきれなくなり、土砂が崩壊して一気に下流に流れて、大被害をもたらしたのです。



背景

明治23年（1890）9月11日に四国地方を横断した台風は、四万十川流域に大雨をもたらしました。豪雨は流域の各地に洪水被害を招きましたが、急に水位が下がり、天候も回復してきました。人々が安心した時、大音響とともに四万十川沿いに激流が押し寄せ、大被害が発生しました。後になって分かったのですが、四万十川上流の東津野村で山崩れが起き、土砂が川の水をせき止めていましたが、貯まった水の量に耐えきれなくなり、せき止めていた土砂が崩壊して一気に下流に流れて、大被害をもたらしたということです。

アクセス

明治23年水害碑

- JR窪川駅より北西へ直線距離約2km
- 四万十町仕出原 高岡神社境内
- 緯度経度 北緯33度13分14秒, 東経133度07分28秒

